

平成11年(1999年)8月1日発行

ベルギー皇太子来学

同国との合併事業視察

本学の誇る工業技術博物館等も参観

本学の歴史に、画期的な一ページを記すベルギー王国フィリップ皇太子の来学は、まさに爽やかな風を届けてくれたかのように、終始した。

中庭に足を踏み入れられた際、待ち受けた学生たちの大きな拍手と歓声に、殿下はこぼれるような笑顔で応えられたが、今回のご訪問で、その温もりある歓迎ぶりが、たぶん最大のご馳走だったに相違ない。

二十一世紀を間近に、国際交流や産学協同研究の促進が声高に叫ばれる昨今、これを契機に、本学もより大きな飛躍を遂げたいものだ。

六月四日、ベルギー王国のフィリップ皇太子が来学された。

訪問の目的は、本学構内に、同国の世界的スチールワイヤー製造で知られるベカルト社ならびに本学とが平成九年に共同で設立した金属繊維製品の開発を手がける合併事業「ベキニット株式会社」(詳細は次頁参照)の視察および本学への表敬である。

本学は、昭和四十二年(一九六七)の開学以来、産学協同を建学の精神の一つに掲げ、「理論」と「実践」の融合を方針に、実践的エンジニア育成を図ってきた。そして、このような教育・研究環境から一つの成果として誕生をみたのがベカルト社で、機械工学科の柳澤章教授の研究がその基になっている。

フィリップ皇太子は、閣外務大臣、駐日ベルギー大使ほか随員八名とともに



吹奏楽団の奏でる『威風堂々』のメロディと学生たちの拍手の中、学校法人・日本工業大学大川陽康理事長(左端)ならびにベキニット社のハイゼントライト社長(右端)のエスコートで中庭を進まれるベルギー王国フィリップ皇太子。その気品と洗練されたマナーは、さながら歴史ある皇室の伝統を彷彿させるに十分であった。

爽やかな「風」を運んで

出迎いの学生たちに大きな感動!!

◆二〇八 中庭で大学のプラズマバンドが「威風堂々」を奏でるなか、大川理事長先導のもとに茶色のスーツに身を包んだプリンス、歓迎の輪をつくった学生たちの拍手と歓声に迎えられ、軽く右手を挙げて応えながら、こやかに歩を進められる。神馬学長、ウエルカムの挨拶。そして学生代表二名(次ページSTUDENT欄参照)が花束を贈呈。プリンスはそれに応えて、しばらくの間、学生に話しかけられる。そして理事長・学長室のある情報工学科棟5階へ向かう。

その間、学生たち数人と握手。学生の中には、この記念すべき瞬間を留めようと、用意の簡易カメラでスナップする姿も見受けられた。

◆二〇九 5階会議室にて、ベカルト社によるプレゼン



電気電子工学科鈴木務教授が、五月一日、日本リ

鈴木務教授が二つの受賞

リモートセンシング学会および郵政省より

リモートセンシング学会総会においてリモートセンシング分野の発展に多大な功績があったことにより表彰された。鈴木教授は日本リモートセンシング学会会長として長い間、学会に貢献されてきた。

さらに引き続いて、六月一日には「電波の日記念式典」において郵政大臣表彰を受けた。これは電気通信審議会海上無線通信委員会委員長として無線設備の技術基準の策定など電波利用の発展に顕著な業績をあげたことによる。

心からお祝申し上げる。

推薦入試日程概要

キミの能力や特技を生かしてみないか!!

選考方法	選考基準	日 程	
書類審査	・基礎学力 調査書、口頭試問	第1回募集	第2回募集
面接	・特長、特技 資格、コンクール受賞歴 生徒会活動、クラブ活動 ボランティア等 ・自己表現力 プレゼンテーション、 志望動機、 将来の希望	出願期間 9/6 ~ 9/30 ※ 10/8 までの受験は 9/18 締切	12/1 ~ 9
		面接 10/1 仙台 10/2 大学 10/4 新潟 10/5 岡山 10/6 松本 10/7 名古屋 10/8 静岡 10/9 大学	12/11 (大学)
		合格発表 10/16	12/18
		入学手続 第1回目 11/5 締切 第2回目 1/18 締切	12/24 締切 1/18 締切

FAX インフォメーションサービス

入試情報や、大学の最新情報などがFAXで入手できます。アクセスは下記の手順で。

電話またはFAXの受話器をとってダイヤル
03(3249)7210/06(411)1100

日本工業大学アクセスコード/6577#をプッシュ

後はナレーションに従って操作するだけ

日本工業大学

〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1
TEL 0480-34-4111 (代) FAX 0480-34-2941
http://www.nit.ac.jp



ベキニット社の製造工程を視察する殿下

◆二一〇 ベキニット社から機械工学科実験研究棟へ、建物を型取った朱塗りの柱に興味を惹かれたらしく、理事長に、内容を質せられる。

◆二一一 歓迎昼食会。列席のため学友会館へ。が、五月三十日に来日以來、ベルギー政府貿易振興局名誉総裁として、神戸・大阪・名古屋・福島を経巡って来られたせいか、少々お疲れの様子。従って二十分ほど休憩され、関係者の拍手に迎えられて宴の席に着かれる。

宴は理事長、ベカルト社長、宮代町町長が挨拶。そしてフィリップ皇太子殿下が謝意と、この国際産学協同事業発展の期待を表明乾杯となった。

◆二一二 和やかな昼食後、プレゼンテーションの交換。学園からは殿下に、日本工業大学付属東京工業高等学校機械科の生徒が実習製作した旧国鉄の蒸気機関車9600形をモデルとしたミニS.L.を。また宮代町からは、わが国建築界の第一線にある「象設計集団」が手がけた「学校教育を変えた」とまで評価の高い町立等原小学校の写真を贈呈された。

◆二一三 皇太子一行、学友会館より帰途に着かれる。

特集

ようこそ学園に!!



常設軌道を走るミニSL見学では、予定になかった乗車体験を……



中庭で待ち受けた神馬敬学長の歓迎の挨拶を受ける皇太子



工業技術博物館では、大正時代の「町工場」の復元に興味を示された



機械工学科実験研究棟のご参観を終え、レセプション会場へ

ミニSL体験に和みの表情

歓迎の宴でベキニット社・ハイゼントライト社長の挨拶に接する殿下

Welcome Reception
In honor of H.R.H. Prince Philippe of Belgium

NIPPON INSTITUTE OF TECHNOLOGY / N.V.Bekaert S.A. / Bekinit K.K.



付属の東京工高生たちが製作したミニSLをプレゼントされ、旅の疲れも吹き飛んだ様子だった

ベキニット(株)について

ベキニット (Bekinit) 株式会社は、本学・機械工学科の柳澤章教授が開発した画期的な金属繊維製造技術に基づき、1880年創立のベルギーに本拠を置き、20ヶ国に60以上の生産拠点を置く世界最大の独立系スチールワイヤー製造会社ベカルト社と本学が協同出資（資本金：20000万円）。二年前にキャンパスの一面に技術開発拠点を設置したベンチャー企業体です。

周知のように、大学と企業がそれぞれの知識と技術をもって提携し、新たな製品を世の中へ送り出す、欧米ではめずらしくないこの企業形態も、残念ながらわが国では、あまり根付いておりません。従って、同社の設立は「実学」を旨とする本学の21世紀に向けての挑戦のひとつです。

ベキニット社の金属繊維の特徴は、概ね以下の4点にありますが、製品はいま国内はもとより、海外マーケットにも出荷されています。

- ①細径で均一なバンドルファイバーで、繊維径も25～100 μ mと幅広く対応可能。
- ②各種の金属材料に対応が可能（ステンレス鋼、銅、アルミ、チタン、ニッケル、耐熱ステンレス鋼など）。
- ③独自の製造方法により、生産ロットや納期に柔軟に対応可能。
- ④低コストであること。

平成11年度 科学研究費補助金内定

基盤研究10,萌芽的研究1, 奨励研究3のプロジェクトに!!



平成十一年度科学研究費補助金が、下記のように内定した。

★基盤研究C
①建築学科・波多野純教授
↓「江戸の武家地形成過程と都市景観の研究」(武家の階層性と都市構造) (継続)

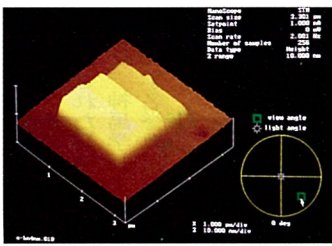


写真 三三三三 二郎研究室

②共通系・竹内淳彦教授
↓「都市環境変化と工業集積変動に関する研究」(継続)
③産学リエンセンター・増田伸爾教授
↓「サイエンスパーク等の地域プロジェクトにおけるビジネスインキュベーションの研究」(継続)
④システム工学科・鈴木敏正教授
↓「超平坦基板上への酸化物高温超伝導体薄膜の作製とその成長メカニズムの解明」(継続)

⑤建築学科・伊藤庸一教授
↓「東アジアに伝承される環境共生技術と現代への適用性に関する研究」(継続)
⑥機械工学科・横谷真一郎教授を代表者として機械工学科・高木助教授、北海道大学・井口教授が、参加する「ノズル内の溶鋼に旋回を付与することによる気泡の微細化と気泡幕による介在物除去」(継続)
⑦共通系・大野修一助教授
↓「解析関数からなるBannach空間とその上の作用素の性質の研究」(新規)
⑧電気電子工学科・森真作教授
↓「カオス的時変パラメータを含むカオス自動振動系の研究」(新規)
⑨建築学科・渡辺勝彦教授
↓「木造建築遺産を保存修復するプログラムの国際比較」(新規)
⑩機械工学科・玉木保教授を代表者として千葉大学・

山縣講師が参加する「繰り返しモーメント負荷・運動療法装置の開発」(新規)
★萌芽的研究
①システム工学科・三宅正二郎教授
↓「ファンデルワールス支持されたナノスライダーの形成とその駆動特性」(新規)
★奨励研究(A)
①機械工学科・中里裕一講師
↓「形状記憶合金アクチュエータを利用した高トルクマイクロナビキュレタの開発」(継続)
②超高压放電研究センター・脇本隆之講師
↓「インパルス高電圧・大電流デジタル測定の高精度化に関する研究」(継続)
③電気電子工学科・神野健哉講師
↓「ヒステリシス・ニューラルネットワークのダイナミクス解析と組み合わせ最適化問題への応用」(新規)
以上十四件。

学園創立九十周年記念事業募金 寄付者ご芳名 (第二回)

学園創立九十周年記念事業につきましては、関係各位から多くのご賛同をいただき厚く御礼を申し上げます。お蔭様で大学部門の記念事業募金活動は終了し、皆様からのご芳志により建設されました「スチューデントセンター」は、課外活動の拠点として、また学生交流の場として多目的に利用させていただいております。

ここに当通信第九十二号でご報告させていただきました以後の、寄付者のご芳名を掲載させていただきます。この他に前回に引き続き続いて後援会、工友会および宮代会から多額のご寄付をいただき、また、宮代会から石彫像「Amour」、後援会五支部(長野県・群馬県・栃木県・近畿・北陸)からブロンズ像「Primavera」が寄贈されました。改めてご協力賜りました方々のご芳志に対して厚く御礼申し上げます。

掲載要領

一、ご芳名は、大学へご寄付をされた方のみを掲載し、高校・中学校へご寄付をされた方のご芳名は掲載されていません。

二、平成十年四月一日から平成十一年五月三十一日までにご寄付された方を掲載いたしました。

三、掲載の順番は、ブロック別に五十音順とし、敬称は省略させていただきました。

取引先・就職先・旧職員
・(株)イシクラ
・岩崎 宏喜
・(株)島津製作所
・畑 弘恭
・明光電気(株)
後援会(福島県)
・石田 正美
・寺島 和也
後援会(茨城県)
・大内 稔
・柴崎 君夫
後援会(栃木県)
・櫻井 正美
・竹澤 敏夫
後援会(群馬県)
・片桐 一幸
後援会(埼玉県)
・内山 博允
・島村 幸紀
後援会(東京都)
・足立 正男
・上原 昭
・知久 昭男
・平井 昌夫
・松村 卓美
・吉原 道義
後援会(新潟県)

・萩野 悟
・山村 精次
後援会(長野県)
・柴 興三
後援会(岐阜県)
・春日 司郎
・松久 信夫
後援会(静岡県)
・朝香 為次
・内山 憲治
・太田 美宗
・田中 秀樹
・巻田 津登司
・松井 鉄夫
後援会(愛媛県)
・木戸 英雄
・宮代会
・喜多 勉
・沼山 助定
工友会(機械)
・大島 敏正(七一年度卒)
・諏訪 隆男(七四年度卒)
・藤田 公雄(七八年度卒)
・広瀬 英宣(九二年度卒)
・横戸 利平(九三年度卒)
・福嶋 英二(九四年度卒)
工友会(電気)
・碓氷 勉(七五年度卒)
・武井 秀行(八七年度卒)
・三ツ泉 誠(八八年度卒)
・横田 政樹(九五年度卒)
工友会(建築)
・柴原富士男(七一年度卒)
・外山 正人(七一年度卒)
・平田 満(七二年度卒)
・土橋 秀行(七五年度卒)
・諸星 高広(七六年度卒)
・正木 智好(九〇年度卒)
工友会(システム)
・山田 俊之(七九年度卒)
・野村 利勝(八一年度卒)
・正田 孝明(九〇年度卒)
・山口 剛(九三年度卒)
・井出 明(九五年度卒)
工友会(その他)
・大岸 文夫
・久保田静子
・黒津 高行
・東照工業(株)
・2Aの会
・渡邊 正道



STUDENT FACE '99

六月四日のベルギー皇太子来訪の日に、学生代表として殿下に挨拶した建築学科四年の向井秀(むかいしげる)君は、本学の運動部を束ねる体育会の会長である。本来、こうした場合には、学生自治会の中央執行委員長が学生の代表として振舞うのが普通なのだが、あいにく彼は教育実習で出身高校へ行っており、不在だった。その代打として起用された向井君には、「俺がこんないい思いをしていいのかなあ」という思いがあったようだ。

学生代表として 殿下に歓迎の辞を述べた両君

石川明子さん(情報工学科二年)

向井 秀君(建築学科四年)



前だ。殿下からは「あなたは学生の代表なのですか」との二問が来た。向井君は「宮城について」である。向井君の歴史への興味は、城にとどまらず、考古学の分野にも及んでいる。昨までは大学地元の宮代町教育委員会にアルバイトとして雇われて、工事中に出てきた縄文時代の遺跡の発掘に参加していた。自分の手で掘り出す」ということは、何物にも代えがたい最高の経験だ。

研究室に所属し、中世建築について学んでいる。卒論のテーマも「宮城」である。向井君の歴史への興味は、城にとどまらず、考古学の分野にも及んでいる。昨までは大学地元の宮代町教育委員会にアルバイトとして雇われて、工事中に出てきた縄文時代の遺跡の発掘に参加していた。自分の手で掘り出す」ということは、何物にも代えがたい最高の経験だ。

地元の人たちからも好かれていてにぎやかな。卒論のテーマも「宮城」である。向井君の歴史への興味は、城にとどまらず、考古学の分野にも及んでいる。昨までは大学地元の宮代町教育委員会にアルバイトとして雇われて、工事中に出てきた縄文時代の遺跡の発掘に参加していた。自分の手で掘り出す」ということは、何物にも代えがたい最高の経験だ。

一方、向井君とともに殿下を迎えた石川明子(いしかわあきこ)さんは、情報工学科の二年生。文化系のクラブを束ねる文化団体連合会(通称「文団」)の本部役員である。殿下の御下を待たされたのは「何で俺が……」という気がした。しかし、真摯な人柄と、真摯に働いてきたその態度が認められ、何物にも代えがたい最高の経験だ。

つ込まれるのだから、ワイドショーに追われる野村沙知代なんか、もつと大変なんだらうなあ」と、身をもつて実感した次第。そんな向井君は、徳島県は神山町の出身。今に続く城への興味は、実家ちかくに上京地城があったことに起因しているらしい。小学生のころには、すでに段ボールでお城を作って遊んでいた。大学では建築史が専攻の渡辺勝彦先生の研

高の喜びがあるとのことだ。四年生となり、卒業、就職、そして体育会の会長として多忙を極める現在では、発掘作業に携わることにはなくなった。しかし、当時の同僚であった地元のおじさん、おばさんたちからは、現在でも遺跡に関する情報が入ってくる。時おり、仲良くなくなったおじさんの手料理を馳走になるようなこともあるらしい。実直な好青年の向井君のことだから、

されるまでになった。実際に会長となつてみると、毎年恒例の行事をこなすだけでも大変だ。今は八月の六、七日に行なわれる「盆踊り大会」、そしてその後の「フレッシュマンキャンプ」のことで頭がいっぱいになっている。みなが当たり前のように思っていることでも、いざ裏方として働いてみると、さまざまな苦労がある。誰かが片付けているのかを考えると、煙草

の吸殻を平気で投げ捨てるようなところない学生たちには、「当たり前」の事ができる人間になれる」と言いたくなる。

学園創立九十二周年 付属中・高校の新校舎で挙行

六月二十九日、吹奏楽団の演奏を合図に学園創立九十二周年記念式典が、東京都目黒区駒場にある本学付



斬新な付属中・高の校舎の吹き抜け部分

属の中学・高校の新校舎、アリーナにおいて、三百名を超える教職員と来賓を迎え挙行された。

この新校舎は、学園創立九十周年の記念事業として関係各位の絶大な協力、後援により二年前に着工した第一期工事において完成をみたもので、この真新しいアリーナを使っての、まさに記念すべき創立記念式典となった。

近事片々

私は何時でも「夢」に向かって生きたいと思っている。「夢」を必ず実現させ、より高く、大きく出れば、素晴らしい「人生の宝」になる

又、研究室の鈴木昭先生には、色々と配慮と指導を頂いた。メンバー個々の努力と、大学関係者の絶大な協力で、素晴らしい卒業アルバム創刊である。

当時、大学には卒業アルバムが無く、また私の卒業した高校も同様で、少し寂しい思いをしていた。

青春の思い出を残しておきたい気持ちから、大学四年生の春、卒業アルバムを作る「夢」に向かって活動を開始した。時間は卒業までの一年間、しかも、就職活動、卒論との同時進行、不安は大きかった。

「とにかく一歩踏み出してみよう」と思い、友人や写真部のメンバー、中央執行委員会、学生課の鈴木課長(現総務部長)、渋谷さん(現学生課長)に話を持ちかけ約一ヵ月後、学生時代に何か残したいと参加してくれた丸谷宏さんを初め、賛同

OB便り



業アルバムを創刊する事が出来た時は、夜を徹しての会則作り、日程を調整しながら続けた撮影の苦勞も、思い出となり、実現化した喜びの方が大きかった。

最初に卒業アルバムを募集した時、六十部しか集まらなかった。しかし、卒業アルバム委員会が、現在も

の元教授に対して、長年の研究、教育及び管理運営面に果たされた業績の紹介とともに、神馬学長より日本工業大学名誉教授の称号記が授与された。引き続き、来賓である東工学園同窓会長の小笠原昭次氏。日本工業大学付属中学校及び付

梅崎栄作助教授が 日本非破壊検査協会より 論文賞受賞

機械工学科の梅崎栄作助教授の論文「混合モード下におけるポリカーボネイト材の疲労き裂発生と局所き裂先端部のひずみ挙動」に

健在し、そして繁栄している事は、当時の活動は無駄ではなかったと確信している。また当時の感動が、私の人生の中で、仕事においても、プライベートにおいても、生かされている。

得られなければ実現しない。卒業アルバムを創刊した時と同じであり「夢」に対して、最初の一步を踏み出す「勇気」と、窮地に立たされた時の「前向きな姿勢」がなければ実現しない。

トライアスロン世界選手権出場に向けて

上杉 大輔
機械工学科 (第9期生)
(株)吉野工業所 松戸工場 企画開発部 課長代理

担当しており、常に世界一のP.E.T.ボトルを開発することを「夢」とし、実現化に向かって、歩んでいる。

激しい企業間競争に勝つ為に、常に他社に負けないボトルを開発しなければならぬ。開発を進めるためには、一人だけの努力では不可能で、他部門の協力が

入社直前に旅先で出会った人から「仕事に打ち込むためには、ストレスを分散させる場所を作る事が大切。」という事を聞き、非常に共鳴を受けた。

9月17日～18日

本学でビジネス交流会 開催

技術相談 学内ツアーも

このたび、日本工業大学では、九月十七日、十八日の両日、宮代町の大学キャンパスで、有力中小企業と大学研究部の参加するビジネス交流会を開催いたします。

この九月九日より十一日までの三日間、本学を会場に「一九九九年度低粒加工学会学術講演会」が開催される。

九月九日より三日間 低粒加工学会学術講演会 本学にて開催される

この九月九日より十一日までの三日間、本学を会場に「一九九九年度低粒加工学会学術講演会」が開催される。

内容は低粒加工技術を初め、除去加工技術、関連工具、加工機械、計測・評価などの分野。その成果を大いに期待している。

国外出張

◆神野 健哉講師(電気電子工学科)出張先「アメリカ(5/30～6/5)目的」1999 IEEE International Symposium on Circuits & Systemsでの論文発表

◆横谷 真一郎教授(機械工学科)出張先「スウェーデン(6/5～6/14)目的」第1回 International Conference on Process Development in Iron & Steel Makingでの講演及びRoy

◆加藤 重雄教授(システム工学科)出張先「フィンランド(6/18～6/26)目的」第10回 World Congress on

◆鈴木 敏正教授(システム工学科)出張先「アメリカ(6/21～7/2)目的」第2回日米非破壊試験シンポジウム及び1999 A S M E力学

◆鈴木 敏正教授(システム工学科)出張先「アメリカ(6/21～7/2)目的」第2回日米非破壊試験シンポジウム及び1999 A S M E力学

◆鈴木 敏正教授(システム工学科)出張先「アメリカ(6/21～7/2)目的」第2回日米非破壊試験シンポジウム及び1999 A S M E力学



昨年の産学交流会風景

お知らせ

おかげさまで、本紙は次号で創刊100号(11月1日刊)を迎えます。付きましては、この記念すべき紙面で、ぜひ学生諸君の力作を紹介したいと思いますので、ご寄稿をお待ちしております。

募集要項

- *随想 [400字詰め原稿用紙5枚程度ワープロ原稿の場合はフロッピーを添付]
- *写真 [風景、人物、環境問題等を題材にしたドキュメント(組み写真可)]
- *俳句・短歌・詩
- *原稿締切: 10月1日
- ※なお掲載作品に関しては、図書券を進呈致します。

編集後記

後記に書いたとおり、六月四日にベルギー王国フイリッポ王太子殿下がご来学された。誠に光栄なことであり、本号では、大きな紙面を割き特集とした。訪問の目的等は紙面にゆずるが、非公式な訪問とはいえ、五月三十日に来日、本学訪問の日まで、同国政府貿易振興名誉総裁としての